

@KCUA

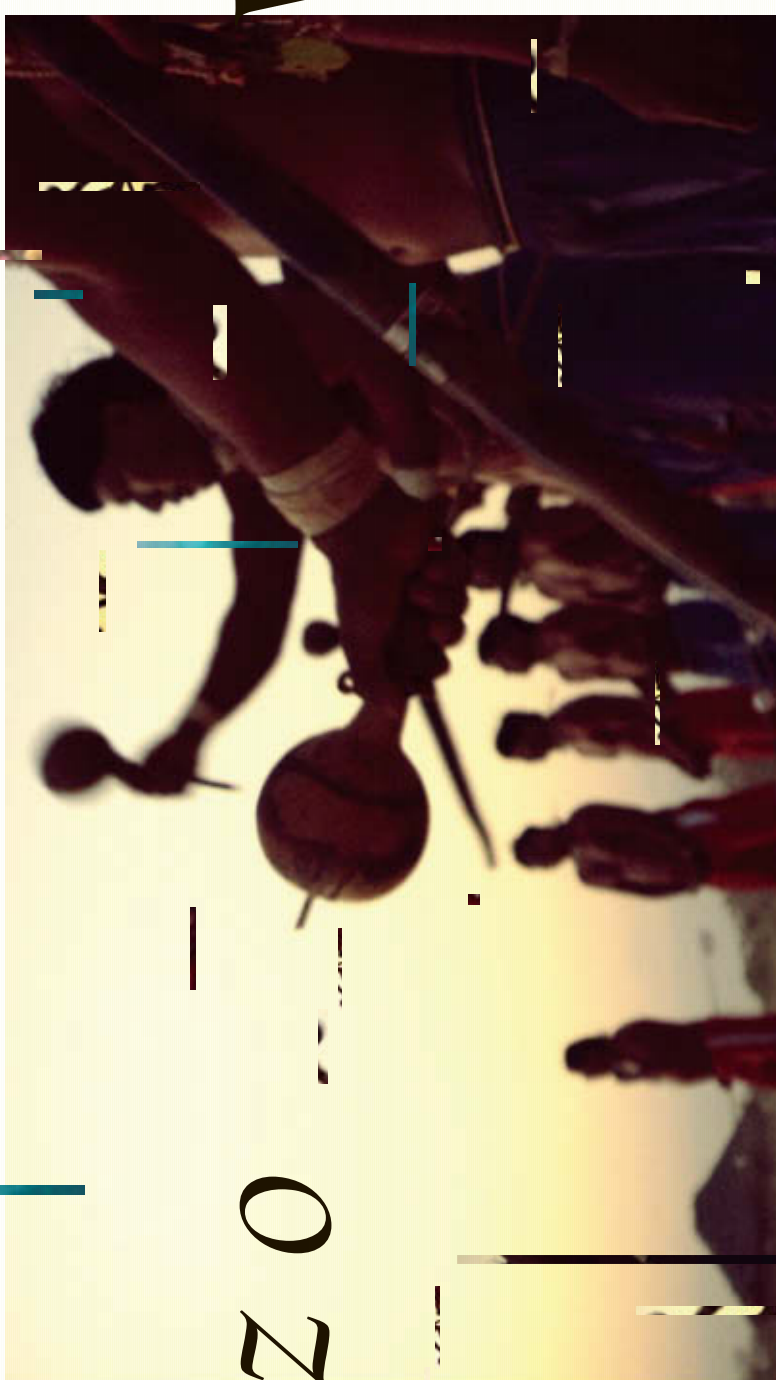
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

脈
動
す
る
映
像

Vincent Moon

From Vincent Moon and Priscilla Telmon's
Híbridos: The Spirits of Brazil project, 2014–2017
© Vincent Moon



Anthro-film Laboratory

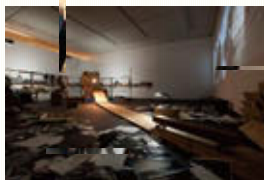
im/pulse: 脈動する映像

2018年6月2日[土]–7月8日[日]
11:00–19:00(月曜休館) 入場無料

Vincent Moon
contact Gonzo
Anthro-film Laboratory

企画 | 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
主催 | 京都市立芸術大学
助成 | 公益財団法人 野村財団
公益財団法人 吉野石膏美術振興財団
協力 | 京都芸術センター
空間現代
樋口造園株式会社
『響・HIBIKI』製作委員会
ワタリウム美術館

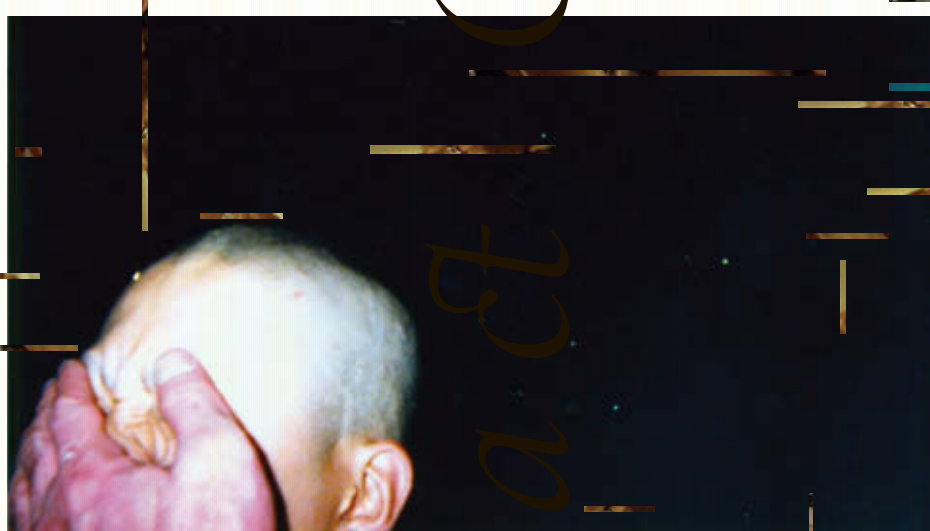
NOMURA 野村財団



contact Gonzo
展覧会「風穴 もうひとつのコンセプチュアリズム、アジアから」
(2011年、国立国際美術館) より contact Gonzo の展示風景
Photo by Kazuo Fukunaga



contact Gonzo
ニューヨーク近代美術館 (MoMA)
『Performing Histories: Live Artworks
Examining the Past』展のためのパフォーマンス 2013
Photo by Choy Kafai



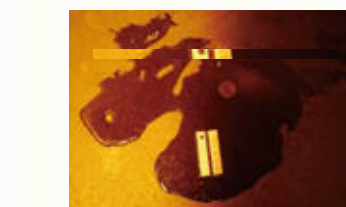
『ラリペロッチー—終わりなき呪詛を生きる—』2007
© Itsumi Kawase



『精霊の馬/When Spirits Ride Their Horses』2012
© Itsumi Kawase



© Ran Muratsu



© fukudapero



im/pulse: 脈動する映像

2018年6月2日[土]ー7月8日[日] 11:00ー19:00 (月曜休館) 入場無料

美術表現が多様化する現在、広い視野と知識を以てその文脈を深く理解することは非常に重要である。90年代以降、ワールドワックなど人類学的手法を活用したポストコロニアル理論など、文化の差異や他者などをキーワードに意味作用を問う作品が多く見られるようになった。その次なる展開として、幅広い学問領域の知と技術を活用し、言語的な理解だけでなく、深部の感覚や感性の作用の差異を扱う表現が目立つてくる。

そこで本企画では、「感覚民族誌」的観点から見ても優れたアプローチを取る映画監督、ヴィンセント・ムーンならびに即興的な身体の接触から始まるパフォーマンス・映像・写真など発表形態を固定しない活動で国内外から高い評価を得る contact Gonzo、そして映像人類学者の川瀬慈 (国立民族学博物館准教授) 率いる研究会「Anthro-film Laboratory」による公開型のセミナーや実験を行う。映画、アート、文化人類学、そしてさまざまな領域に携わる人々が京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAに集うこの試みは、従来の学問それぞれのアーキテクチャー自体の拡張、発展へとつながる極めて重要な実践となることだろう。

Vincent Moon, contact Gonzo, and the Anthro-film Laboratory



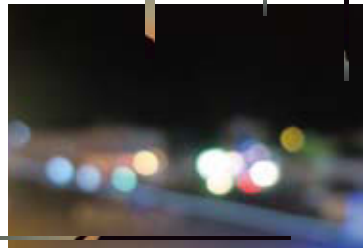
ヴィンセント・ムーンとプリシラ・テルモン
Photo by Camille Bokshoza

Vincent Moon (ヴィンセント・ムーン)
1979年フランス、パリ生まれ。パリ出身のインディペンデントフィルムメーカーであるヴィンセント・ムーンは、フランス発の音楽情報サイト「La Blogothèque」のためにシネマ・ヴェリテの手法(作り手の存在が映画から排除される虚構上のトリックを排し、映像の作り手が被写体の人々と関わる行為そのものをも記録し、映画をより真実に近づけようとする手法)によって制作された作品の数々でその名を知られるようになる。2009年からは遊牧民のごとくカメラひとつで世界を旅し、現地の伝統音楽から宗教的な儀式、新しい実験音楽まで幅広く探求し映像を制作。これらの旅の記録映像は、彼の生涯をかけたノマディック・フィルムメイキングプロジェクトとしてウェブ上で公開され、また世界各地でフィールド録音された音源は、自身のレーベルであるCollection Petites Planètesより配信されている。現在、2019年の実施を目指し、日本における魂を震わせる表現を記録する旅、HIBIKIプロジェクトの準備を進めている。
www.vincentmoon.com

Priscilla Telmon (プリシラ・テルモン)
ディレクター、写真家、作家。1999年からフレンチエクスプロラーソサイエティのメンバーとなり、訪れる地域で継承されて来た知恵と神秘を敬いながら、長期の冒険旅行を行ってきた。遊牧民、聖なる儀式やシャーマニズムといった分野を得意とし、古代文化から得た学びを映画、ルポタージュ、書籍といった媒体を通して、国際報道機関、テレビ局、美術館で発表している。
www.priscillatelmon.com



contact Gonzo (コンタクト・ゴンゾ)
2006年に塚原悠也と垣尾優により結成されたパフォーマンス集団。「contact Gonzo」とは、70年代のゴンゾ・ジャーナリズムに由来し、グループの名称であると同時に、身体を「接触」させる独自の方法論の名称でもある。街中や公演で即興的なパフォーマンスを繰り広げつつ、映像や写真作品を制作。結成当初からパフォーマンスの記録映像をYouTubeにアップするなど、メディアを活用した活動を展開。また、07年「吉原治良賞記念アートプロジェクト」に参加以降、現代美術の分野でも注目され、多くの国際展や芸術祭などに参加している。13年にはニューヨーク近代美術館 (MoMA) にてパフォーマンスを発表した。現メンバーは、塚原悠也、NAZE、松見拓也、三ヶ尻敬悟の4人。パフォーマンス、インスタレーション、マガジンの発行など多岐にわたる活動を展開している。セゾン・フェローとして2011-2017年度の間採択。
contactgonzo.blogspot.jp



© Itsushi Kawase

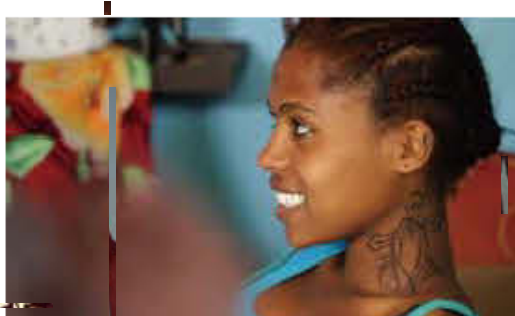
Anthro-film Laboratory (アンスロ・フィルム・ラボラトリー)
映像人類学を起点とするAnthro-film Laboratoryは、文化人類学、映像、アートが交差する実践のなかで、言語に依拠するだけでは伝達されない知や経験の領域を探索し、人文学における新たな知の創造と語り/体験の新天地を切り開くことを目指してきた。文字に依拠した成果を前提とする人類学は、調査する者の身体を「書く者」として規定し、その経験や知の在りようを「書く」「読む」枠組みの中に限定してきたといえる。そうした認識と手法に対して問題提起をしてきたのが映像人類学である。Anthro-film Laboratoryは、調査者と受け手の双方の身体を、記号を解する存在である以上に感覚的な存在であると考えている。両者を媒介するものを筆記具だけでなく、カメラ、レコーダー、携帯電話などの技術、或いは調査者の肉体と音声にまで拡張することで、従来の枠組みに縛られない地平を切り開こうとしてきた。視覚のみならず、触感や聴覚に働きかける知を、イメージやサウンド、詩など、多岐にわたる手段で表現していくことが企図されている。
運営委員：川瀬慈、ふくだべろ、村津蘭、矢野原佑史ほか
www.itsushikawase.com/anthro-film_lab



川瀬慈 (かわせ・いつし)
映像人類学者、国立民族学博物館准教授。エチオピアの音楽職能者等を対象とした人類学研究に基づき映像作品を制作し各国の民族誌映画祭で発表してきた。代表的な作品に『ラリベロッチ』『僕らの時代は』『精霊の馬』『Room II, Ethiopia Hotel』『ザフィマニリスタイルのゆくえ』『めばえる歌ー民謡の伝承と創造ー』等。2012年より、Anthro-film Labを共同運営し、様々な分野の表現者、研究者との対話からオーディオビジュアルの話法の開拓にとりくむ。近年は日本の他にも、ドイツ、中国、韓国、エチオピアにおいて映像人類学の理論と実践に関する教鞭をとる。
www.itsushikawase.com



© contact Gonzo



『Tattoo Stories in Gondar』(川瀬慈、2014年制作) © Itsushi Kawase

関連イベント

- 会場表記のないものは全て京都市立芸術大学ギャラリー @KCUAにて実施
- 特筆なければ全て申込不要・参加無料

パフォーマンス&オープニングレセプション

日時：2018年6月2日[土] 14:00ー19:00
14:00ー パフォーマンス
『ヴィンセント・ムーン&プリシラ・テルモン「SACRED+SーA Music + Cinema Ritual」』
『contact Gonzoによるパフォーマンス』
『前林明次 (アーティスト/情報科学芸術大学院大学教授)、川瀬慈「サウンド・朗読パフォーマンス」』
16:00ー オープニングレセプション

ヴィンセント・ムーン レクチャー&バシエ音響彫刻とのパフォーマンス

日時：2018年6月15日[金] 17:00ー19:00
会場：京都市立芸術大学 大学会館
17:00ー レクチャー
18:00ー「SACRED+SーA Music + Cinema Ritual」
出演：ヴィンセント・ムーン&プリシラ・テルモン、Ensemble Sonora [沢田穠治、渡辺亮、岡田加津子 (京都市立芸術大学音楽学部教授)、北村千絵 (Voice)]

Anthro-film Laboratory

『ロッセラ・ラガッツィ映像作品『受け継ぐ人々』上映会

日時：2018年6月7日[木] 19:00ー21:00
ゲスト：ロッセラ・ラガッツィ (映像人類学者/トロムソ大学博物館准教授)
上映作品：『Fire Keepers (受け継ぐ人々)』
2007年、57分、サーミ語・ノルウェー語・英語 (日本語字幕付き)

『ワークショップ 「ヴィジュアル・ストーリーテリングとダミーブック」

日時：2018年6月10日[日] 11:00ー19:00
ゲスト：岡本裕志 (Visual Storyteller / 写真家/映像ディレクター)
定員：5名 (要事前申込・材料費有料/ @KCUA ウェブサイト参照)

『マーティン・グルーバー映像作品 『イスラームと聖なる森の間で』上映会

日時：2018年6月14日[木] 19:00ー21:00
ゲスト：マーティン・グルーバー (映像人類学者/ブレイメン大学講師)
上映作品：マーティン・グルーバー、フランク・ザイデル監督『Between Islam and the Sacred Forest (イスラームと聖なる森の間で)』
2016年、52分、ナル語 (英語字幕付き)

『韓国打楽器のリズムを用いた 実験的パフォーマンス

日時：2018年6月16日[土] 15:00ー17:00
出演：神野知恵 (民族音楽・民俗芸能研究者/国立民族学博物館機関研究員)、チェ・ジェ Chol (韓国太鼓奏者)

『ジョン・タムラ映像作品『石川を掘る』上映会

日時：2018年6月20日[水] 19:00ー21:00
ゲスト：ジョン・タムラ (ミュンスター大学映像人類学修士課程在籍)
上映作品：『Shoveling Ishikawa (石川を掘る)』
2018年、52分、日本語 (英語字幕付き)、英語 (日本語字幕付き)

『サウンドレクチャー「漂流する音と身体」

日時：2018年6月30日[土] 14:00ー16:00
講師：柳沢英輔 (音文化研究/フィールド録音作家/同志社大学文化情報学部助教)
聞き手：大田高充 (インスタレーション/サウンドパフォーマンス)、ふくだべろ/福田浩久 (詩・メディア人類学/立命館大学先端総合学術研究科博士課程)

『映像人類学レクチャー&ワークショップ 「映像で物語ること」

(拡張された場におけるアートマネジメント人材育成事業「状況のアーキテクチャー」テーマ3「社会」記憶の演出×「記録」)

日時：2018年7月2日[月]ー4日[水] 14:00ー17:00 (全日参加がのぞましい)
講師：川瀬慈
定員：20名 (要事前申込/ @KCUA ウェブサイト参照)
助成：平成30年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」

『ふくだべろ/福田浩久、村津蘭上映会 「革新と継承を超えた映像人類学の未来」

日時：2018年7月4日[水] 19:00ー21:00
登壇：ふくだべろ/福田浩久、村津蘭 (アフリカ地域研究・映像人類学/京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程)

*各イベントの詳細は随時ウェブサイトで公開します。

お問い合わせ・会場

京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

〒604-0052 京都市中京区押油小路町 238-1
Tel: 075-253-1509 / E-mail: gallery@kcua.ac.jp

- *京都市バス・京都バス「堀川御池」下車すぐ
- *京都市営地下鉄東西線「二条城前」駅下車2番出口より徒歩3分



http://gallery.kcua.ac.jp